

会議名	港区創エネルギー・省エネルギー機器等設置費助成事業におけるJ-クレジット創出に向けた第2回連携事業候補者選考委員会
開催日時	令和8年3月5日（木曜日）午前9時から午前11時20分まで
開催場所	港区役所914会議室
委員	東京都立大学都市環境学部教授 委員長 朝日 ちさと 環境リサイクル支援部長 副委員長 太田 貴二 環境課長 委員 佐藤 雅紀 地球温暖化対策担当課長 委員 東條 慎弥 連携協創担当課長 委員 石川 久美子
事務局	環境課 地球環境係
会議次第	1 開会 2 審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配付資料	[席上配付] ・次第 ・資料1 審査実施概要（選考委員向け） ・資料2 採点基準表 ・資料3 審査における共通質問事項趣旨 ・資料4 審査結果・総合結果表（※採点終了後、机上配布） ・資料5 第1回選考委員会議事録 ・参考1 事務局採点結果詳細 ・参考2 事業候補者選考基準 [事前配付] ・A社提案資料 様式4 事業者概要及び業務実績 様式5 プログラム型プロジェクト運営実績届出書 様式6 J-クレジット創出対象メニュー届出書 様式7～7-5 J-クレジット取得計算書 様式8 報告等の方法に関する提案書 様式9 事故・緊急時対応提案書 独自提案資料 ・B社提案資料 様式4 事業者概要及び業務実績 様式5 プログラム型プロジェクト運営実績届出書

	<p>様式6 J-クレジット創出対象メニュー届出書</p> <p>様式7～7-5 J-クレジット取得計算書</p> <p>様式8 報告等の方法に関する提案書</p> <p>様式9 事故・緊急時対応提案書</p> <p>独自提案資料</p>
会議の内容	
副委員長	<p>【1 開会】</p> <p>(副委員長から開会のあいさつ)</p> <p>委員長の到着が遅れているため、港区創エネルギー・省エネルギー機器等設置費助成事業におけるJ-クレジット創出に向けた連携事業候補者選考要領第11条第3項の規定に基づき、副委員長が職務を代理します。</p>
事務局	<p>(事務局から配布資料の説明)</p> <p>資料2 採点基準表のうち基本事項の評価は様式4から様式7を基に定量的に判断できるもののため、事務局で事前に点数を入力しています。算定過程については参考資料1に記載しておりますので、異議がなければこちらの点数を反映していただきます。</p>
全委員	<p>(異議、質問等なし)</p>
事務局	<p>【2 審査実施概要について】</p> <p>(資料1～資料3でスケジュール等を説明)</p>
副委員長	<p>【3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施】</p> <p>A事業者、B事業者の順で実施します。この後、各自由のプレゼンテーションおよび質疑応答が終了するまで、事務局で進行及び時間管理をお願いします。</p>
事務局	<p>(A事業者入室、プレゼンテーション実施)</p> <p>A社のプレゼンテーションの説明が終了しました。これから質疑に移ります。</p>
A委員	<p>初年度からの実行性について、様式6及び様式7に記載の各メニューは、令和8年度から取組開始できますか。J-クレジットの初回取得時期は具体的に何年何月ごろになりますか。</p>

A事業者	<p>令和8年度早々からプロジェクトに参加できます。具体的な還元時期は、方法論、設備、メニューによって少し異なり、太陽光と空調は毎年冬頃、LEDは毎年秋頃を予定しています。相談の上、港区に活用しやすい形で協議したいと思っています。</p>
E委員	<p>区民や事業所等のプロジェクト参加者が参加する時、申請や定期的な報告にどれぐらいの手間がかかりますか。また、カーボンニュートラル入門講座等の環境教育にかかる費用はどれぐらいで、その費用負担をどのように考えていますか。</p>
A事業者	<p>助成金の提出物に要素を追加すればこのスキームを実行できると思うので、区民にとっては大きな負担がそれほど生じず、既存事業の延長線で実施できると考えています。区民には年1回モニタリング報告をいただきますが、弊社が直接区民に連絡し、オンラインで申請いただきます。スマホ等に対応し、手間を減らしていくように工夫したいと考えています。年1回のモニタリング報告はサンプルチェックが認められております。</p> <p>出前授業は無償での対応を想定しております。一部は有料でのご提案となる可能性がございますが、詳細は協定締結後に港区様のご意向に合わせて提示したいと考えています。</p>
B委員	<p>クレジットの区への還元率の根拠と、今後の還元率変動の可能性について教えてください。</p>
A事業者	<p>出前授業等の営業を含めた想定と、システム管理費等を勘案し確定しています。今後の港区への還元率に関して、絶対あり得ないとは言えませんが、基本変えないと考えています。資料にある100%地産地消という表記は、港区様に返すというよりは、港区内で使うことで、実質的に区外に価値が出ていかず、結果的に港区様に貢献、還元していくことを想定しています。</p>
B委員	<p>提出物は現状のものをそのまま使うとのことで、例えばその提出方法等の事務的な受付業務の簡略化についての提案はありますか。</p> <p>また、連携の推進体制と主な役割として、代表事業者が事業全体の管理、構成事業者がプロジェクトの運営管理をする構成になっていますが、役割と共同事業体の違いについて教えてください。</p>
A事業者	<p>受付業務の簡略化について、自治体様と補助金を基にクレジット創出活動を行っており、様式をどう変えていくべきなのか、一般参加者の方の導線を</p>

	<p>どうやれば軽減できるか、何度も打ち合わせを重ねて事業設計をした実例があります。要件化の際は具体的なノウハウですすぐにご提案させていただきますので、令和8年度早々に開始できます。</p> <p>構成事業者はクレジットを生み出す手続きを中心に担い、システムの管理等を含むテクニカルなところを中心に担当します。共同事業体は、代表事業者と構成事業者まとめて共同事業体という形で事業を行うことを表現しています。</p>
B委員	<p>区側に受付の業務改善等のご提案等をいただけるのはどちらになっていますか。</p>
A事業者	<p>港区との窓口は、本事業体における港区専任チームを設けており、共同事業体の各社どちらからも選出した担当がすぐに伺えるようにしています。</p>
C委員	<p>創エネルギー・省エネルギー機器設置費助成は、区民、事業者の方々の意識として、「安くなるからいい」くらいというのが正直なところだと思います。行動変容は義務付けが一番簡単ですが、そうではなく、区民、事業者一人ひとりにゼロカーボンに向けた取組の重要性を分かっていたら、積極的に申請していただく。そういう意識を区民の方々に持っていただくには、事業者の目から見て、どういった取組や周知、アピールをしていけば良いとお考えですか。</p>
A事業者	<p>参画意識を持ってもらうということについては、自分で目標に対して行動してもらうことや、実際にお客様と接点を持っている我々の強みを生かして、単に手続きして終わるだけでなく、説明することもできます。普及のため、様々な場を用いて理解してもらうこともできます。ただ、全員に対してできるわけではないので、Web等を使って説明するかとか、そもそもベースとなる環境教育みたいなところを徐々に作っていくという、重層的な取組をしながら徐々に高めていくということが必要かと感じています。</p>
D委員	<p>先ほどのクレジットの還元率について、区外に出て行かないような仕組みという話でしたが、その還元額、販売、クレジットの単価等も関係してくると思うのですが、額についての見込みはございますか。</p>
A事業者	<p>基本的な仕様は、クレジットをそのまま港区にお返しすると形になります。ただ、一般的にJ-クレジットは4000円から5000円で値段がついており、今後、価格は上がる見通しを持っていますので、もし必要になれば活用方法を提案させていただきたいと考えています。</p>

D委員	クレジットを得る機器の種類によつての差があるかと思いますが、そのあたりのご知見もお持ちということですか。
A事業者	はい。例えば太陽光の住宅で設置があると、大体1トンくらいのクレジットを得られると押さえておりますので、今回の試算もしております。
事務局	その他にご質問ありますでしょうか。
全委員	(追加質問等無し)
事務局	以上でA社のプレゼンテーション及び質疑応答は終了とさせていただきます。
	(A事業者退室)
事務局	今から10分ほど採点のお時間とします。
	(B事業者入室、プレゼンテーション実施)
事務局	B社のプレゼンテーションは以上になります。続きまして、各委員からの質疑応答をさせていただきます。
A委員	J-クレジットの初回の取得時期は、何月ぐらいになるか具体的にご説明ください。また、プロジェクトの参加者には、年1回ほど報告をいただく必要があると認識していますが、全員からの報告がなくても、サンプリングである程度数が取れば、クレジット化できる等の考え方はありますか。
B事業者	スケジュールはメニューによって異なります。モニタリングは、事業者と住民かによって考え方が違います。事業者のものは、全件モニタリングデータが必要です。個人のはサンプリングが使えます。なので、前者は必ず情報をいただき、後者はサンプリングです。我々は既に分母が大きいので、全件取れなかったという時の救済がされる可能性は高いです。
B委員	参加者の負担について、プロジェクトに参加される区民の入力工数、申請や定期報告についてご説明いただければと思います。
B事業者	資料をいただくタイミングは入会と認証の2回あります。補助金で設備の

	<p>資料をもらっている場合、必要なものを100%もらっていれば、資料をもらう必要はありません。港区がどこまで資料を貰っているのかによって、誰から何を貰うかを精査した上で実行することが前提です。</p> <p>その上で資料を貰うときに結局どちらがやりやすいのかはケースバイケースだと思っていて、メールやGoogleフォーム等で写真をスマホで撮って送っていただくということでも構わないので、調整をさせていただければと思います。</p>
B委員	他の自治体でも同じようなスキームを使っているということですか。
B事業者	おっしゃる通りです。
B委員	クレジットの配分について設定された根拠について教えていただけないでしょうか。その還元率は変動していくのか、それとも固定できるのかを教えてください。
B事業者	固定を考えております。収益の根拠に関しては、我々の原価を考慮した上で、決定しています。我々の平均は実はもう少し低く、今回は我々の利益率を下げてでも、ぜひ皆さんと一緒にやりたいということで、還元率を上げさせていただいています。
B委員	緊急時の体制について、対応されるのはプレゼンをされている3名の方でしょうか。
B事業者	今日は2名来ていますが、1名は別の者が来ています。
E委員	補助金BPOは、区側は事務手続きが簡素化されるものの、そちらにとっては、かなりの人件費もかかると思っています。さらに勉強会等にもかなりの費用がかかると思いますが、費用負担をどのように考えていますか。
B事業者	BPOは有償請負になり、今回の提案内でこのままやるものではありません。セミナー、勉強会は無償でご支援させていただきます。定期的に無料のセミナー等を我々発信でやっていますので、その内容を少し修正した上で、やらせていただくことを想定しております。
C委員	創エネルギー・省エネルギー機器等設置費助成への区民の意識は、クレジットを含めた脱炭素に向けて行動しているというよりは、機器助成で安くなるし、ランニングコストも抑えられる部分があるというのが正直なところで

B事業者	<p>す。本来、脱炭素社会を目指すため、区民の方々の意識の改革、行動変容の一部としてこの事業があるのですが、御社としては、事業者なり区民一人ひとりにそういう意識を醸成していくという根本的な課題について、どう行動変容を促していくのがいいか、お考えを教えてくださいいただけます。</p> <p>大きなステップで、最初に強制力があって、こういうことをやるのが普通だとなる転換点があって、能動的な行動が起きると思っています。挨拶でも、「おはようございます」と何人かが強制的に言って、それがみんな普通になるという話があると思いますが、脱炭素も基本的には一緒と思っています。なので、基本的にはまずは補助金をつけて、こういうものを設置するのが普通だとしていくのがまず一つかと思っています。</p> <p>その上で、プラスアルファは何かをリサイクルする等の意識かと思っています。サーキュラーエコノミーの文脈で色々なインプットがあるとか、それを楽しくやるということですね。メルカリさんとかと何か協創するとか、一般的なプラットフォームを作るとか、そういった流れが必要なのかなと思っています。</p>
D委員	<p>メニューごとに手間や費用対効果が違う部分があると思いますが、どういったところに訴求していくことが、港区においては有効だと考えていますか。</p>
B事業者	<p>費用対効果を皆さんの作業量を減らす点で考えると、補助金要綱に入れることが一番スムーズです。補助金を渡すときに回収必須の資料をクレジット制度で必要なものに合わせると工数が減ります。入会時の資料をまず基本的に無くし、その上でモニタリングを考えた時に、工数を減らしてクレジット数を増やすのであれば、LEDを増やしていくのが一番と思っています。その上で、1設備に対するコストパフォーマンスという意味だと太陽光が大きいので、太陽光をうまくすることが必要と思っています。太陽光のモニタリングは自家消費のところだけになるのですが、ここに関しては弊社が1件1件お電話させていただき、今のところ回収率は90%を超えています。</p>
D委員	<p>補助金を広げていくに当たっての、工程を減らすというところはよくわかったのですが、お聞きしたかったのは、港区の地域特性を考えたときに、どこに訴求するのが一番良いでしょうか。</p>
B事業者	<p>港区のクレジット作るということにおいては、まずLEDだと思っています。皆さんがやらなければいけない、クレジットもやりやすいという意味だとLEDです。</p>

事務局	その他にご質問ありますでしょうか。
全委員	(追加質問等無し)
事務局	B社の質疑応答を終了とさせていただきます。ありがとうございました。 (B事業者退室)
事務局	採点が終わりましたら、事務局に採点表を預けていただいて、休憩も兼ねて、10分ほどお時間をいただきたいと思います。その間、事務局で採点します。
全委員	(採点表提出)
事務局	(採点表集計、資料4配布)
	【4 審査結果及び事業候補者の選定について】
委員長	事務局から、資料4について説明をお願いします。
事務局	項番1の基本事項の評価については事務局採点です。本日は項番2の企画提案及びプレゼンテーションの評価を入力させていただきました。 A事業者は515点、基本事項の評価との合計で705点、B事業者は541点、基本事項の評価との合計で736点です。
委員長	それでは、評価したポイントなどを各委員から講評をお願いします。その上で採点の振り返りとなります。
A委員	私はB社を高くしました。特に区の業務支援の観点を高く評価していて、助成金の手続きで区職員の事務負担が大きい課題を、J-クレジットのプロジェクト開始に合わせてアウトソーシングできる可能性があります。また、クレジットの還元率もこちらに優位性がありました。おそらくB社はA社に比べ認知度が低いと想定され、プロジェクトへの参加に対し区民の不安感があるのではないかという点が気がかりではあります。 A社は、代表事業者が区とも協定を結んできたという実績、信頼や盤石な基盤が良いとは思いますが、一方で令和9年度から助成金とこのプロジェクト参加をセットにして要件化、具体的なインセンティブの提案としてエコチャレンジとの連携という話は、我々が想定する範囲内で、メリットとしては

<p>B委員</p>	<p>そこまで強くない印象を受けました。また、2つの事業者間の情報の取り扱いの点はちゃんと説明がなかったのと、区の事務負担という観点はこちらは無かったと思います。</p> <p>企業連携の観点で、柔軟な対応ができそうな企業という視点でB社を高めに評価しました。クレジットの還元率もB社の方が良いというのと、A社は様式8で区民や中小企業者が報告しやすい仕組みや、区の事務作業の目線の記載がなかったので、少し厳しく採点しました。当日のプレゼンテーションについては分かりやすいご説明だったと思います。B社は、当初より申請フォームの工夫もあり、G o o g l eフォーム等を使って省略化を図る取組が記載されていたのと、非常にプレゼンも前向きな形で、自治体での実績もあるので、行政側のニーズを捉えた仕事をしてくれるのではと感じました。</p>
<p>E委員</p>	<p>私はA社の方が若干高くなっています。A社は非常に実績が多く、区と連携協定を既に結んでいることもあり、やるべきこと、区の考え方も熟知していると感じています。クレジットは区単独だと一定割合という話ですが、区全体で見れば100%地産地消しようというのが良いと思います。自治体との協定という意味では、非常に多くやっています。区の既存事業、みなとエコチャレンジといった区の既存事業との連携も、しっかり記載されていました。一方、B事業者はG o o g l eフォーム等を使うことで、非常に利用者にはわかりやすいなと思った反面、セキュリティのことはほとんど書いてなく、不安があるなと思いました。補助金BPOは非常に良いと思いますが、アウトソーシングに、人件費がかなり増大するというのが少し残念に思っています。今日のプレゼンを聞いていると、代表の方が非常に熟知していて、こちらの質問に対して理解して答えていると感じたのと、きめ細やかな対応ができるというところで、A社よりも良いと思いましたが、トータルとしては、A社を高くしました。</p>
<p>C委員</p>	<p>ゼロカーボンシティを達成するために区民や事業者の協力が欠かせないので、どちらがより区民にアピール力があるかという視点で見ると、周知力はA社の方がいいのかなど。書類の構成も、今日の説明も、B社はよく知っているからこそだと思いますけれども、非常にマニアックな説明もありました。これをそのまま区民の方に説明するわけではないかもしれませんが、区民の方が一般的にこういった創エネルギー・省エネルギーを導入しやすいような取組、教育部分も、少しA社の方に分があったのかななど。区民という素人の目から見たときにどちらの説明の方が聞きやすいかなというところを見ると、A社の側かなと思いました。全体としては甲乙つけがたいし、B社は実績十分というところがあるので、結果として私としてはA社の方にして</p>

D委員	<p>いますが、A、Bどちらが選ばれてもいいかなというのが私の判断です。</p> <p>私はAの方が高くなっています。A社、B社ともそれぞれ良いところが違うと思いました。結果としてAの方が高くなった理由が、港区の特性の理解があるのではないかと思います。エコチャレンジとかそういうことだけではなくて、業務ビル、要は創出量のボリュームゾーンを活用して、次に展開していくという。区民に対して行動変容というところは、とにかく課題ですが、強みを次に投資していくことが、環境政策の中では必要だと思っています。まず強みのあるところで原資を生み出して、それを区民に対しても含めて、環境政策として再投資していく仕組みに合うのがこちらだと思います。B社についてはセキュリティというか、緊急時の体制とかの点数が低く、そこがやっぱり心配ではありますし、マンパワー的にも心配ではありますが、工程の話や現場に寄り添った動きができ、現場のニーズをよくわかっているのので、連携しやすいという点はすごくいいと思いました。</p>
委員長	<p>これまでのご意見を踏まえ、採点の振り返りの時間とします。採点を変更する場合は、採点表を朱書きで修正し、変更の有無に関わらず、5分後を目安に事務局に回収していただきます。</p> <p>なお、D委員はA社のプレゼンテーションに参加できていないため、公平性、公正性の観点からプレゼンテーションに関わる具体性、取組意欲の項目は両社とも採点しておりません。当該項目については他の委員の採点結果を1.25倍し、当初の想定どおり1000点満点とすることに異議ありませんか。</p>
全委員	<p>(異議なし)</p>
事務局	<p>(再集計、様式4再配布)</p> <p>修正と、具体性、取組意欲の項目の調整を含め、A事業者は合計で752点、B事業者は合計で740点です。</p>
委員長	<p>修正のあった委員から、その理由について伺います。</p>
B委員	<p>皆さんの講評を聞いて、確かにA社のゼロカーボンシティの観点や区民の方に伝わりやすいプレゼンという視点が評価に不足していたと思い、項番1、2、4を修正しました。</p>
A委員	<p>最初はプレゼンでも差をつけるようにしましたが、正直そこまで大きな差はなかったので項番5を修正しました。</p> <p>また、区の業務支援が最大のメリットと考えていたのですが、他の委員か</p>

	<p>らのご指摘にもあった、プラスの費用がかかるというところで、このクレジット創出業務の中で包括して考えられていなかったというところが、高く評価しすぎたと思い、項番3を修正しました。</p>
委員長	<p>審査結果、各委員からの意見を総括し、当委員会としては、A社を事業候補者として選考することといたしますが、よろしいでしょうか。</p>
全委員	<p>(異議なし)</p>
委員長	<p>それでは異議ございませんので、A社を事業候補者として選考いたします。それでは事務局から各事業者名を発表してください。</p>
事務局	<p>A社は共同事業体で、名称は港区・東京ガス・クレアトゥラグリーンパートナーズ、代表事業者が東京ガス株式会社、構成事業者がクレアトゥラ株式会社です。</p>
事務局	<p>【5 その他】 (事務局より事務連絡)</p>
委員長	<p>【6 閉会】 以上をもちまして、港区創エネルギー・省エネルギー機器等設置費助成事業を活用したJ-クレジット創出に向けた連携事業保護者選考第2回選考委員会を終了とさせていただきます。</p>